

「平泉 - 浄土思想を基調とする文化的景観」の世界遺産推薦について

1. 名称

平泉 - 浄土思想を基調とする文化的景観

(Hiraizumi - Cultural Landscape associated with Pure Land Buddhism)

2. 概要

平泉は、本州北部における東北地方のほぼ中央に位置し、岩手県に所在する。平泉は、12世紀に、奥州藤原氏により浄土思想を基調として完成された日本の北方領域における政治・行政上の拠点である。自然地形に順応して造られた施設とその周辺の農村は、地下に完全な状態で遺存している考古学的遺跡を含め、良好な文化的景観を形成している。特にその構成要素である寺院建築や庭園群は、浄土の世界を具現化した空間造形の傑作であり、その背景を成した精神性は、宗教儀礼・行事を通じて現在にも確実に継承されている。

3. 遺産の種別

文化遺産 記念工作物・遺跡（文化的景観を含む）

4. 所在地

岩手県平泉町・奥州市・一関市

5. 資産の範囲（別図参照）

推薦資産は、6に掲げる9資産から構成されている。9つの構成資産については、文化財保護法に基づき、国宝1件・重要文化財5件、特別史跡3件・史跡4件・特別名勝1件・名勝1件が指定され、重要文化的景観1件が選定されている。

6. 資産及び緩衝地帯の面積

各資産及びその緩衝地帯の面積、資産の総面積及びその緩衝地帯の総面積は、以下に記すとおりである。

	資産名	資産面積 (ha)	緩衝地帯面積 (ha)	合計 (ha)
1	中尊寺	137.4	7,802.0	8,003.2
2	毛越寺	29.4		
3	無量光院跡	3.9		
4	金鷄山	7.5		
5	柳之御所遺跡	10.5		
6	達谷窟	5.1		
7	白鳥館遺跡	3.6		
8	長者ヶ原廃寺跡	3.8		
9	骨寺村荘園遺跡と農村景観	349.9	411.1	761.0
	合計	551.1	8,213.1	8,764.2

7. 構成資産の内容

平泉の構成資産は、政治・行政上の拠点とその周辺に及び9資産から成る。政治・行政上の拠点を構成する資産としては、中尊寺・毛越寺・無量光院跡・金鶏山・柳之御所遺跡がある。さらに、その拠点と密接に関連して周辺の地域を構成する資産には、達谷窟・白鳥館遺跡・長者ヶ原廃寺跡・骨寺村莊園遺跡がある。

中尊寺 初代清衡が12世紀初めから四半世紀をかけて造営した寺院である。境内には、国宝建造物1件と重要文化財建造物5件がある。特に中尊寺金色堂は、蒔絵・螺鈿など日本の漆芸・金工の粋を極めた12世紀の建築物で、今もなお奥州藤原氏三代の遺体と四代の首級がミイラとなって納められている。

毛越寺 二代基衡が12世紀中頃に造営した寺院である。境内には、毛越寺庭園・旧観自在王院庭園が含まれ、政治・行政上の拠点としての範囲を示す東西南北には、周辺との境界認識を示す鎮守社が設けられていた。

無量光院跡 三代秀衡が12世紀後半に建立した寺院である。宇治の平等院を模して造られたとされているが、金鶏山を背後に擁し、西方極楽浄土の世界を表わした空間造形は、浄土庭園の最高の発展形態を示している。

金鶏山 標高98.6mの山で、山頂に経塚が設けられていた。浄土思想に基づいて完成された政治・行政上の拠点である平泉の空間設計の基準となった信仰の山である。

柳之御所遺跡 奥州藤原氏の政庁「平泉館」に比定され、政治・行政の中心的な施設であったことを示す地下遺構や豊富な遺物が良好に残されている。

達谷窟 平泉の西方に当たり、奥大道上の陸上交通の要衝地に造られた寺院で、境内には磨崖仏がある。

白鳥館遺跡 平泉の北方にある北上川交通の要衝地に位置している城館跡である。奥州藤原氏に先行する安倍氏に係わる伝承を持ち、中世城館の特徴を良く表している。

長者ヶ原廃寺跡 12世紀、北方領域における政治・行政上の拠点が平泉に形成される歴史的な背景を物語る寺院跡とみなされている。

骨寺村莊園遺跡と農村景観 かつて骨寺村と称された本寺地区は、平泉の中心的な寺院である中尊寺の莊園が営まれ、14世紀の絵図に描かれた中世の農村の基本的な土地利用形態と居住形態を彷彿とさせる農村の良好な文化的景観が現在に継承されてきた。

8. 平泉の文化遺産の価値

以下に示すとおり、本資産は世界遺産の登録基準の iii)、iv)、v)、vi) の観点から評価が可能である。

iii) 奥州藤原氏は11世紀末期から12世紀にかけての約100年の間に、水陸交通の要衝の地であった平泉において、変化に富んだ自然の地形を存分に活かしつつ、浄土思想に基づき独特の政治・行政上の拠点を完成させた。その基盤には、周辺地域における豊かな産金をはじめ、東南アジアから中国・沿海州及び北方海域にわたって広範囲に展開した文物の交流と、その結果蓄積した莫大な財力があつた。奥州藤原氏の滅亡により平泉は日本の北方領域における政治・行政上の拠点としての機能を停止し、その後の開発による大規模な変容を受けることなく、往時の

様相を語る上で不可欠の諸要素を良好な状態で遺存させた。それらは、浄土思想に基づき自然と一体となって完成された政治・行政上の拠点とその周辺の良好な文化的景観を構成している。

iv) 平泉には、日本独特の意匠・技術を用いて浄土の世界を表現した寺院建築や庭園など、傑出した空間造形の作品群が生まれた。

特に中尊寺金色堂は、広く国内外との交流により収集された材料の下に、蒔絵・螺鈿など日本の高度な漆芸・金工技術を用いて完成された装飾の粋を成す建築であり、ミイラとなった奥州藤原氏初代～三代（清衡・基衡・秀衡）の遺体と四代（^{やすひら}泰衡）の首級を今もなお納めるなど、12世紀の浄土教建築のなかでも最も優れた意匠と精神上的の特質を持つ作品である。

また、毛越寺庭園をはじめとする一群の浄土庭園は、いずれも11世紀から12世紀にかけて流行した末法思想を背景として、周囲の自然地形との緊密な関係の下に、様々な浄土の姿を表現した空間造形の傑作であり、同種の庭園のなかでも最高に発展した様式を含むのみならず、その歴史的な発展の過程を明瞭に示す点において貴重である。

v) 平泉の周辺地域に当たる骨寺村では、中尊寺^{きょうぞうべつとうりょう}経蔵別当領の荘園が置かれて以来、小盆地に水田耕作と農家・寺社が孤立分散する村落の居住の形態が、近世・近代を通じて大きな変化を受けることなく緩やかな発展を遂げ、極めて良好な農村の文化的景観として継承された。土地利用の基本形態や景観の特質を示す諸要素は14世紀に描かれた絵図との照合が可能であり、世界的に見ても比類のない価値を持つ。

vi) 平泉が日本の北方領域における政治・行政上の拠点として形成される過程で、その精神的基調を成したのは浄土思想であり、平泉文化の重要な核心を担った。また、奥州藤原氏4代の遺体及び首級がミイラとなって納められている中尊寺金色堂は、平泉の政治・行政上の拠点形成における精神上的の起点となったのみならず、現在においてもなお地域住民の精神的な拠り所となっている。加えて、平泉の文化的伝統は、毛越寺の延年や中尊寺の神事能などの宗教儀礼・行事をはじめ、奥州藤原氏や源義経などに関する多くの伝承、文学・芸術作品を通じて、後世の日本人の精神構造に多大な影響を与え、今日においても確実に継承されている。

9. 今後の予定

平成18年	9月中旬	世界遺産関係省庁連絡会議に報告の上、決定
平成18年	9月下旬	世界遺産センターに対し、登録推薦書の暫定版を提出
平成18年	12月中旬	文化審議会文化財分科会に対し、1月に世界遺産センターに完成英語版を提出することを報告
平成19年	1月中旬	世界遺産センターに対し、登録推薦書の完成版を提出
平成19年	2月中旬	文化審議会文化財分科会に対し、1月に世界遺産センターに完成版を提出したことを報告
平成20年	6月頃	世界遺産委員会で世界遺産一覧表記載への可否の審査